

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄における大型海産動物について

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内田, 詮三 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016833">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016833</a>

# 特別講演会資料

(講演要旨)

## 「沖縄における大型海産動物について」

国営沖縄記念公園 水族館 館長 内田 詮三

野生動物を収集、飼育し、それを不特定多数の観客の観覧に供するのが動物園、水族館である。陸上動物を飼育展示している動物園については、まず中規模以上の園であれば、主たる大型動物は全て網羅しており観客は簡単にそれらを見ることが出来る、曰く、ゾウ、サイ、カバ、キリンである。

一方水族館では事情は全く異なる。大型海産動物の代表格は鯨類であるが、体長10メートル以上になる、ヒゲ鯨8種、歯鯨2種のうち現在水族館で、飼育されている種類は皆無である。魚類では、サメ・エイ類 - 板鰓類が圧倒的に大型になるグループであるが、世界の水族館において魚類の最大種のジンベエザメを当館が飼育しているのみで、全長No.2のウバザメ、No.3のホホジロザメは、全く飼育されていない。

このように水族館においては未飼育の種が多く、とりわけ大型動物では主たるものが未飼育と言っても過言ではない。

人類は月に迄到着し得たが、ひざ元の地球の海に関しては、そこに住む動物の全容さえつかめていないのである、まして、飼育においておや、である。

当水族館の動物展示方針は沖縄周辺海域に住む動物を収集展示することである。しかし、1975年の開館当時は、沖縄の鯨類、板鰓類については、未調査であり、生息種リストも未完成であった。その後14年を経て当館の上記2グループに関する調査もかなり進捗したので、その結果の一部を紹介する。

鯨類は世界で79種（ヒゲ鯨11種、歯鯨68種）、日本近海には38種（ヒゲ鯨9、歯鯨29）が分布すると考えられている。沖縄近海では、25種（ヒゲ鯨4、歯鯨21）が分布回遊すると推定されるが、当館の調査結果で、21種（ヒゲ鯨3、歯鯨18）が確認されている。

板鰓類のうちサメ類は世界で350種、日本近海には約100種が分布する。沖縄近海にも100種近くが生息すると推定されるが、当館の調査で51種、

この他沖縄県水試の深海ザメ調査で約10種、計61種が確認されているに過ぎない。エイ類は世界で400種、日本近海で50種が分布、沖縄近海では20種未満と推定され、14種を確認している。

この他大型海産動物を飼育することによって得られる知見の若干について紹介する。